

平成22年10月14日

地震被害にあわれた方々にお見舞い申し上げます



9月29日夕方に発生した地震では、たくさんの方が被害にあわれました。心からお見舞い申し上げます。

今回の地震は直下型地震で、湯本地域のみ被害が出ています。そのため、テレビや新聞での扱いも小さく、なかなか詳しい情報が入りませんでした。当初、天栄村の震度は3と発表され、実際のゆれかたと発表された震度との差に疑問を感じた方もいたことと思います。また、現在も余震が続いており、不安を感じているかたが多くいらっしゃると思います。



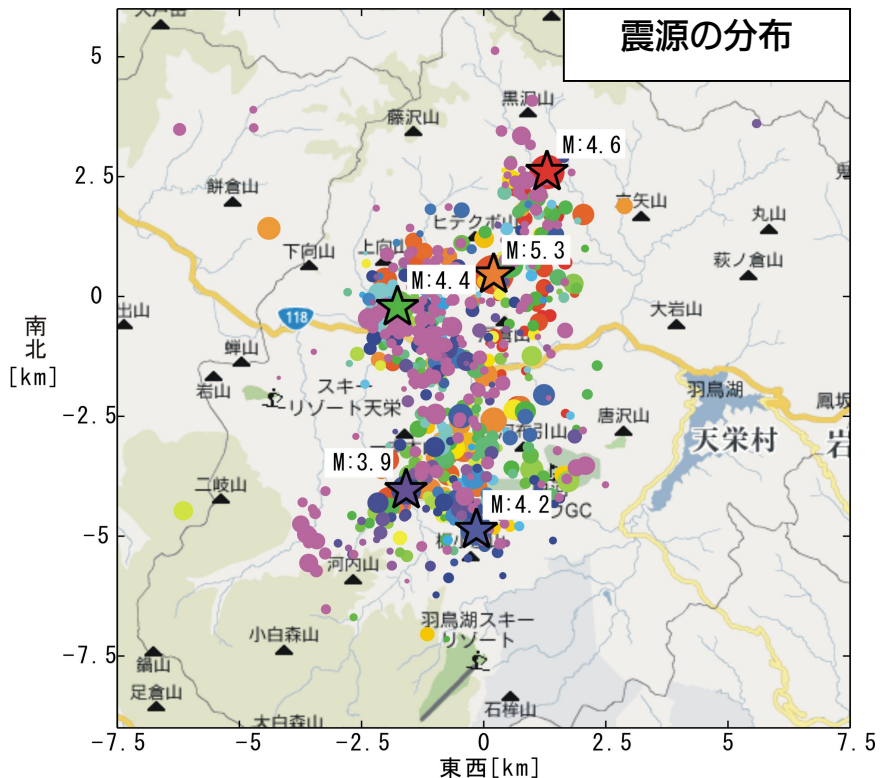
EMY湯本地域協議会では、東北大学新妻研究室から今回の地震について詳細に解析したデータをいただき、新妻弘明教授からお話をうかがいましたので、「EMY湯本地域協議会だより」の『号外』というかたちでご紹介したいと思います。

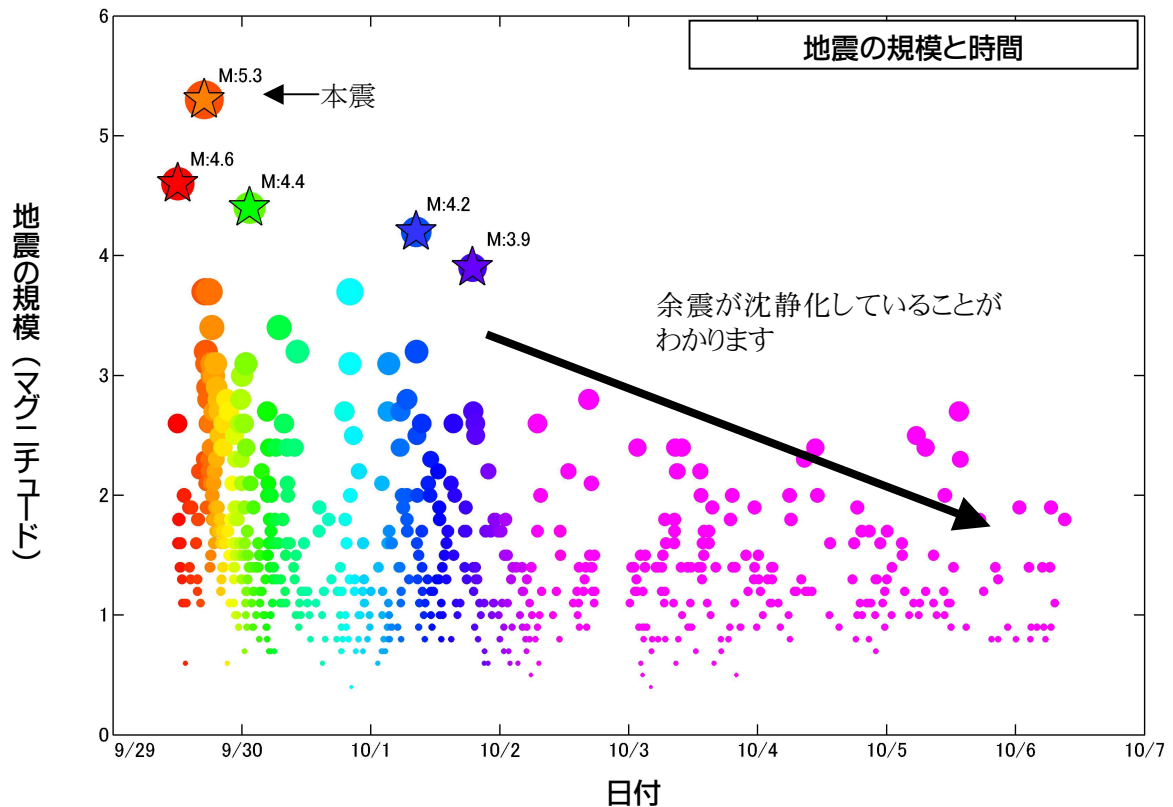
Q.どのように解析したのですか？

A.今回の地震では皆様さぞ驚かれ、また、その後の余震と地鳴りに御心労もいかばかりかとお見舞い申し上げます。東北大学新妻研究室では、湯本の地震の発生以来、防災科学技術研究所で公開している高感度地震観測網(Hi-net)のデータの解析を行っています。図は学部4年の三森創一郎君に作成してもらったものです。

Q.震源はどこだったのでしょうか？

A.右の図は、一連の震源の位置を示したものです。この図に見られるように、一連の地震はまさに湯本の真下で起きています。深さは大体5kmから10kmです。今回の地震は9月29日の12:02におきた、M4.6の地震が発端でした。これは黒沢の真下あたりで発生しました。その後17:00にM5.3の本震が戸倉山とヒデクボ山の間あたりで、そして30日1:24にM4.4の余震が野仲のすぐ北でおきました。その後大きな地震はM4.2が1日8:24に板小屋付近で、同じく18:53にM3.9が二岐付近で起きています。このように今度の地震は北から次第に南に移動して行きました。その間、小さな余震がほぼ全域で発生しています。





Q.地震はこのあとどうなっていきますか？

A.上の図面は時間をおって地震発生の状況を示しています。一つ一つの丸印はそれぞれの地震を表し、上にある丸ほど大きな地震であることを示しています。これに見られるように、時間がたつにつれて、地震の大きさも数も次第に小さくなってきており、このまま終息に向かうと思われま

Q.なぜ湯本で起きたのでしょうか？

A.ご存じのように、日本列島には太平洋プレートが東より押し寄せており、本州中北部はこれに押しつぶされた状態になっているため、今回のような直下型の地震はどこでおきてもおかしくありません。今度の地震も逆断層と言って、地面が東上方向に突き上げるように動き、これが日本列島にかかっている力によることを表しています。

Q.これから注意することはありますか？

A.このような地震は、いったん地震により力が解放されれば当分起きることはありません。しかし、今回の地震によって生じた地割れに雨水が浸入すると崖崩れや地滑りがおきる可能性がありますので、しばらくは注意が必要です。なお、今でも余震が続いていますが、慣れてくるとどちらの方向から来た余震かおおよそわかるようになります。

M(マグニチュード)：地震の規模を表す量で、震源のすぐ近くではこの値と震度が大抵一致します。マグニチュードの値が1つ増えると、地震の規模は10倍になります。

.....

EMY湯本地域協議会でも炭焼き窯が被害を受け、炭の追加のご注文を受けることができない状態となっております。みなさまにおかれましても一日も早くもとの生活に戻られることをご祈念いたしますと同時に、備えあれば憂いなし、この災害を教訓に、日ごろの防災について再確認をしていただければと思います。